

近畿地区会議ニュース



No. 32 ◆ March 2023

Kinki District Branch

令和4年度 日本学術会議 近畿地区会議の活動について

近畿地区会議代表幹事

第3部会員 小山田 耕二

(京都大学学術情報メディアセンター・教授)

日本学術会議近畿地区会議の令和4年度の活動についてお知らせします。新型コロナの感染症法上の位置づけについて、政府はことし5月8日に季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針を固めたというニュースが流れていました。感染症法では、ウイルスや細菌を重症化リスクや感染力に応じて原則「1類」から「5類」に分け、国や自治体が行うことができる措置の内容を定めています。「2類」には重症化リスクや感染力が高い「結核」や「重症急性呼吸器症候群＝SARS」などがあり、地方自治体は感染者に就業制限や入院勧告ができ、医療費は全額、公費で負担します。「5類」には「季節性インフルエンザ」などがあり、地方自治体は就業制限や入院勧告の措置がとれないほか、医療費は一部で自己負担が発生しますが、ようやく長いトンネルを抜けることができた気持ちでおられる方が多いと推測します。

近畿地区会議は、地区運営協議会を毎年2月頃開催し、その運営方針を審議し決定しています。令和4年度は、学術講演会のテーマとして幾つか提案されたものの中から、ウェルビーイングにふさわしいテーマとして「総合知をはぐくむ学び」を開催しました。今回のテーマにおいては、近畿地区会議委員の矢野桂司先生（立命館大学教授）、高山佳奈子先生（京都大学教授）など多くの方々のご努力で実現したものです。

講演会の詳細についてはここでは申し上げませんが、総合知について、様々な角度から、将来を見据えた興味深い議論ができたと思います。今回は、久しぶりの対面開催の再開を目指し、ハイブリッド開催としましたが、今回も台風の影響をうけて、対面参加の方に、オンライン接続をお願いする結果となりました。9月14日に小笠原近海で発生した台風第14号は、大型で猛烈な勢力に発達し、講演会当日の19日に京都府に最も接近しました。そのため、参加いただいた皆様には、講演会終了後のご挨拶もできぬまま、早急に帰路についていただきました。講演会パネル討論における西和彦先生のご参加を含めて、みなさまの記憶に深く刻まれる講演会となったことを願っております。

以上、簡単ではありますが、近畿地区会議の活動を紹介させていただきました。今後の近畿地区におきます日本学術会議の事業につきましては、ご意見、ご提案がございましたら、是非、会員、連携会員、また地区会議運営協議会委員の先生方、あるいは近畿地区会議事務局（京都大学研究推進部研究推進課内）まで、お寄せいただければと思います。皆様方のご協力を切にお願い申し上げる次第です。

日本学術会議近畿地区会議学術講演会

「総合知をはぐくむ学び」

実施概要

日 時：令和4年9月19日（月・祝） 13時00分～17時00分
主 催：日本学術会議近畿地区会議、日本学術会議総合工学委員会、京都大学
後 援：公益財団法人 日本学術協力財団
場 所：京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール（オンライン・対面併用開催）

プログラム

開会の挨拶

菱田 公一 日本学術会議副会長、日本学術会議第三部会員、
明治大学研究・知財戦略機構特任教授

時任 宣博 京都大学理事、副学長

趣旨説明

小山田 耕二 日本学術会議近畿地区会議代表幹事、日本学術会議第三部会員、
京都大学学術情報メディアセンター教授

講演

招待講演1「現場での取組— 高大接続における総合知」

西 泰子 学校法人須磨学園理事長

招待講演2「総合知に向けた大学での学びのデザイン— 専門知・集合知・総合知」

松下 佳代 日本学術会議第一部会員、
京都大学高等教育研究開発推進センター教授（現 教育学研究科教授）

招待講演3「デザイン思考・アート思考の活用」

武井 涼子 グロービス経営大学院教授、声楽家

パネル討論・全体総括

パネリスト：上記講演者に加えて、

話題提供者1「総合知をはぐくむ総合知教育基盤」

黒岩 友樹 株式会社ベネッセコーポレーション 大学・社会人カンパニー
社会人教育事業部 事業企画推進課 大学事業責任者

話題提供者2「スタートアップにおける取組—イノベーションと総合知」

武田 秀太郎 九州大学都市研究センター准教授

コーディネータ：小山田 耕二 日本学術会議近畿地区会議代表幹事、
日本学術会議第三部会員、京都大学学術情報メディアセンター教授

朗読音楽劇場

ウェルビーイング体感ユニット「ことばとおとのかたち」

演奏:鈴木孝紀(クラリネット) 愛川聡(ギター) 三浦摩紀(言葉ウェルビニスト)

開会挨拶

高山 佳奈子 日本学術会議第一部会員・京都大学大学院法学研究科教授

総合司会

矢野 桂司 日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授

講演の概要

多様で複雑な問題に向き合う際に、従来の欠如モデルに限界が指摘されている。欠如モデルとは、人びとが科学を受容しなかったり、科学について不信を抱いたりするのは、人びとの科学的知識の欠如が原因だから、人びとの科学的知識を増やせば問題は解消するはずだという想定を指す。この限界に対処する新たな一つの切り口として、具体的には、SDGsにおける諸目標（カーボンニュートラルの目標など）や世界平和の達成において、専門知に加えて、総合知に注目が集まっている。ここで、総合知とは、問題解決において、人文・社会・自然科学における知識を横断的に活用するための素養のことを指す。総合知をはぐくむにはどのような教育が望ましいかについて、以下の観点で議論を促進したい。

1. 総合知が重要な役割を果たすのはどのような場面か？
 2. 総合知と専門知との関係をどう確立すればよいのか？
 3. 総合知をはぐくむためにデザイン思考・アート思考をどう活用すればよいのか？
- 上記の問いに対し、多様な立場からの問題提起、報告を踏まえ、議論を行いたい。



開催報告

令和4年9月19日（月・祝）に、日本学術会議近畿地区会議、同総合工学委員会及び京都大学は、地域社会の学術の振興に寄与することを目的として、日本学術会議近畿地区会議 学術講演会「総合知をはぐくむ学び」を開催しました（オンライン・対面併用開催）。

冒頭に、菱田公一 日本学術会議副会長（明治大学研究・知財戦略機構特任教授）および時任宣博 京都大学理事・副学長の挨拶のあと、小山田耕二 日本学術会議近畿地区会議代表幹事（京都大学学術情報メディアセンター教授）より本講演会の趣旨説明が行われました。

続いて、西泰子 学校法人須磨学園理事長より「現場での取組— 高大接続における総合知」、松下佳代 京都大学高等教育研究開発推進センター教授（現 教育学研究科教授）より「総合知に向けた大学での学びのデザイン—専門知・集合知・総合知」、および武井涼子 グロービス経営大学院教授・声楽家より「デザイン思考・アート思考の活用」と題した招待講演が行われました。その後、黒岩友樹 株式会社ベネッセコーポレーション 大学・社会人カンパニー 社会人教育事業部 事業企画推進課 大学事業責任者より「総合知をはぐくむ総合知教育基盤」、および武田秀太郎 九州大学都市研究センター准教授より「スタートアップにおける取組—イノベーションと総合知」について話題提供がありました。

講演後には、パネリストとして西和彦 学校法人須磨学園学園長が加わり、小山田代表幹事の進行によるパネル討論が行われました。また、参加者からも多数の質問が寄せられ、活発な質疑応答が繰り広げられました。

パネル討論後には、ウェルビーイング体感ユニット「ことばとおとのかたち」より朗読音楽劇場が行われました。

最後に、高山佳奈子 京都大学法学研究科教授より閉会挨拶があり、盛況のうちに終了しました。本講演会には約 340 名（うち、オンライン約 300 名）の参加があり、終了後のアンケートでは「総合知の考え方や実践について様々な立場の方のご意見をお伺いすることができ、大変興味深い講演会だった。」「統合知について、総合的・多面的な考察がされていて有意義だった。今後もこのような講演会に参加したい。」などの感想が寄せられました。



開会挨拶（菱田副会長）



開会挨拶（時任理事・副学長）



趣旨説明（小山田代表幹事）



パネル討論の様子1



パネル討論の様子2



パネル討論の様子3

日本学術会議近畿地区会議学術講演会

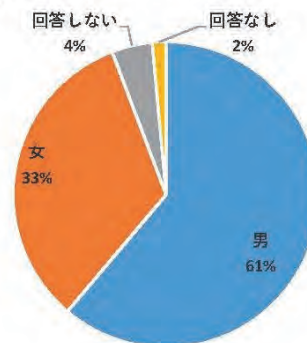
「総合知をはぐくむ学び」アンケート集計表

【講演会参加：340名 回答：139名】

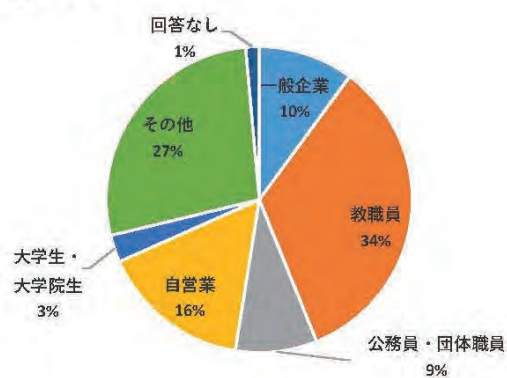
(1) 年齢



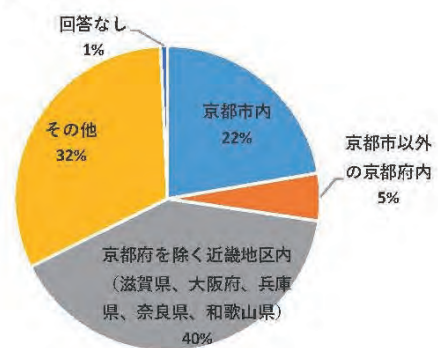
(2) 性別



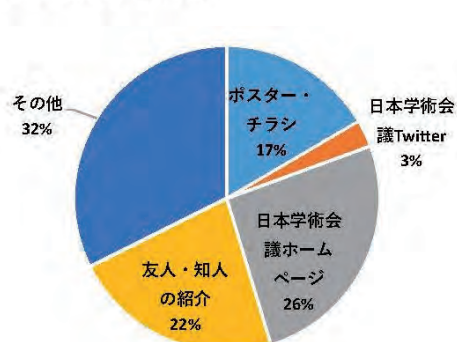
(3) 職業



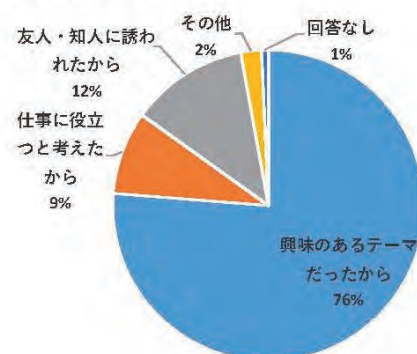
(4) 居住地



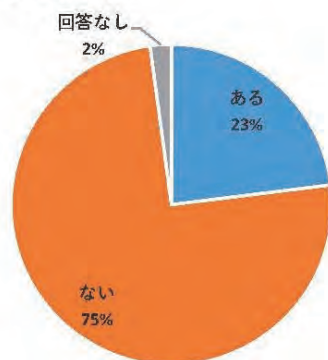
(5) 講演会を知った方法



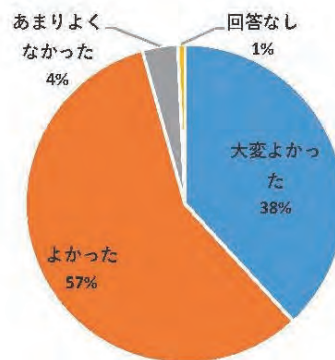
(6) 参加動機



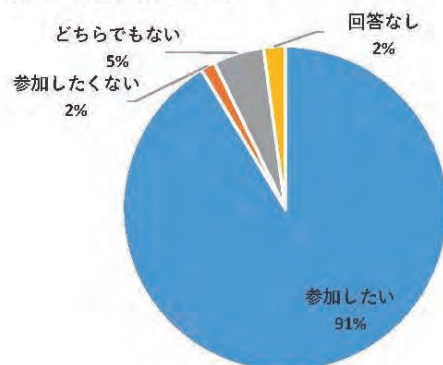
(7) 今までの参加有無



(8) 講演会の内容



(9) 今後参加したいか



*** 日本学術会議近畿地区会議とは ***

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和 24 年（1949 年）1 月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。

職務は、以下の 2 つです。

1. 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
2. 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約 87 万人の科学者を内外に代表する機関であり、210 人の会員と約 2000 人の連携会員によって職務が担われています。

日本学術会議の役割は、主に（Ⅰ）政府に対する政策提言、（Ⅱ）国際的な活動、（Ⅲ）科学者間ネットワークの構築、（Ⅳ）科学の役割についての世論啓発です。

日本学術会議には、地域の科学者と意思疎通を図るとともに学術の振興に寄与することを目的として、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の 7 つの地域に地区会議が置かれています。これらの地区会議は、地域の求める情報に即したテーマを設定した学術講演会の開催や科学者との懇談会、地区会議ニュースの発行などを行っています。

地区会議運営協議会は、当該地区に居住する会員又は勤務地を有する会員の中から各部ごとに選出された会員 9 名（令和 5 年 2 月時点）で構成されており、現在、近畿地区会議においては、第 3 部会員の小山田耕二（京都大学学術情報メディアセンター教授）が代表幹事を務めています。

※「日本学術会議地区会議運営要綱」は以下のリンク先よりご覧ください（PDF 形式）。

<https://www.scj.go.jp/ja/scj/kisoku/15.pdf>

近畿地区会議運営協議会

代表幹事	小山田 耕 二	（第 3 部）
	高 山 佳奈子	（第 1 部）
	矢 野 桂 司	（第 1 部）
	光 富 徹 哉	（第 2 部）
	村 山 美 穂	（第 2 部）
	齋 藤 政 彦	（第 3 部）
	下 條 真 司	（第 3 部）
	伊 藤 公 雄	（連携会員）
	伊 藤 宏 幸	（連携会員）

近畿地区会議事務局

〒606-8501
京都市左京区吉田本町
京都大学 研究推進部研究推進課内
TEL: 075-753-2041
FAX: 075-753-2042
メールアドレス
scj-kinki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

日本学術会議ホームページ

<https://www.scj.go.jp/index.html>